

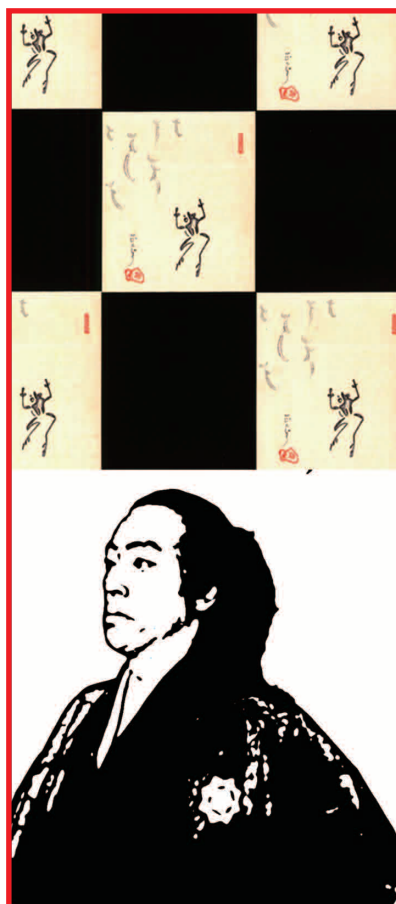
自由民権記念館だより

自由のともいび

JIYU NO TOMOSHIBI

- 平成21年度特別展「土佐が誇る名優 澤田正二郎展」
- 「夏休み子ども歴史教室」報告
- 幻の伝記「板垣退助君伝記(全4巻)」刊行
- 憲法映画「太陽と月」完成上映会

VOL.
67
2009
October



平成21年度特別展 土佐が誇る名優 澤田正二郎展 ― 龍馬を演じた奇才 ―

開期 10月10日(土)～11月23日(月・祝)

● リレーエッセイ

お帰り! 「澤田 正二郎」

昭和二年五月、当時一世を風靡していた「澤田正二郎」こと澤田正二郎が、三十六歳にして初めて父祖の地、土佐に凱旋興行を行った。

熱狂的な歓迎を受け、また澤田も「幾十年、幾百年来、この私の血を伝えたなつかしい父祖代々の」地に帰る感動を覚えていた。父祖の眠る秦泉寺の墓地进行度訪れて、近頃人生に大きな迷いをおぼえていたが、「よき祖先たるための人生」という新しい目標を得た喜びをうたえる。

この時玉垣を設営した墓地には、のちに高知を訪れた新国劇座員一同や、夏期大学講師として来高された土方与志夫妻も参拝している。

名残を惜しみつつ土佐を離れるとき、「こんどお越しになるまでは、鉄道の便もできませんから」と、澤田の船嫌いを知っている人が言ってくれたとき、澤田は、鉄道の便が高知の経済的利得を他県に奪われることを心配している。八十年前の澤田の慧眼、まさに現状を衝いている。

一日、講演会を行ったとき、婦人の質問がどんどん出ることに、こんな事は高知が初めてだと喜び、「素直な、一本気な、情熱的な高知の女、それはまた転じて高知人全体の人情であろう」と云う。まさに「澤田」は生粋のいごっそ土佐人であろう。

「澤田正二郎特別展」には、新国劇の殺陣(たて)を引き継ぎ、いま江都で絶大な人気の「劇団若獅子」が賛助出演されるという。

お帰りなさい! 「澤田」さん。

(秦史談会 松本 紀郎)

平成21年度特別展 ― 龍馬を演じた奇才 ―

土佐が誇る名優「澤田正二郎」展

〔開催期間〕平成21年10月10日(土)～11月23日(月)祝

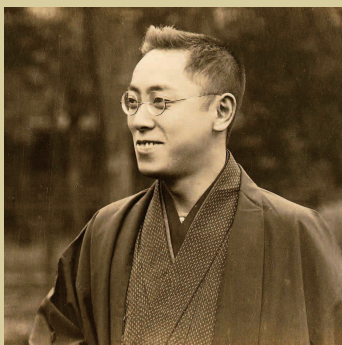


今年は、郷土の名優、澤田正二郎(通称・澤正)の没後80年に当たります。

当館では、平成21年度特別展で演劇界に新國劇という新しい風を吹き込み、38歳という若さで早逝した、澤田正二郎の足跡をたどります。

大正から昭和初期にかけては、維新の志士がまだ多く生存し、政治の世界

で活躍し、また芸術方面のパトロンの存在でもありました。その2世・3世には、演劇や芸術の世界に身を投じる人が多くみられます。このように政治と演劇との距離が近かった時でもありました。そうした時代の演劇と民権運動とのかわりを堀詰座や新富座の芝居小屋の歴史を振り返りながら、検証します。



【展示テーマ】

- 1 澤田正二郎のルーツ(略年譜)
- 2 文藝協会～芸術座
- 3 新國劇の旗揚げ(大正6年4月18日 新富座)
- 4 高知への凱旋公演(本町堀詰座)
- 5 「坂本龍馬」の上演
- 6 名優の死

高知市秦地区とのつながり

澤正の父、正弘は、秦泉寺の出身で、西南戦争時には、同郷の谷干城のもとで熊本城に籠城し、その功により、全国各地の収税長を務め、明治24(1891)年、滋賀県に赴任します。翌年に、正二郎が生まれます。その名は父が崇拜していた後藤象二郎からとって名付けられました。秦泉寺には、先祖の墓があり、昭和2年、正二郎が凱旋帰郷した際、玉垣を作るなど整備しています。正二郎亡きあと、新國劇は、島田正吾、辰巳柳太郎らによって、その遺志が引き継がれ、新國劇の公演が高知である時には、座員が墓参りを欠かしませんでした。

この度の特別展を機に、秦地区の方々と墓所の清掃や地元での資料説明会を行いました。(写真右)

新しい資料が発見されるなど、澤正の土佐への深い思慕が裏付けされました。

昭和3(1928)年、運命かのように父祖縁の地の先人、坂本龍馬を演じ、大好評を博するも翌年逝った。その短いながらも、疾風のように駆け抜けた壮絶な生き様を今回の特別展で感じていただければ幸いです。



メモリアル フォト

― 澤正の素顔 ―



明治25(1892)年5月

滋賀県大津町に生れる

明治27(1894)年

父、正弘死去で上京

明治42(1909)年

早稲田大学文科高等科予科入学



少年時代の澤田兄弟

明治44(1911)年11月

文藝協会第2回公演

(帝国劇場 初舞台)

大正3(1914)年

早稲田英文科卒業・渡瀬淳子と結婚

大正5(1916)年

長男正太郎誕生



家族とのひととき

大正6(1917)年3月

新富座「ボラ」公演3日目で再び芸術座を脱退。同年4月、新國劇を結成。新富座で「新

関連企画行事のご案内

〔前夜祭〕 開幕前夜祭プログラム

- 日 時:10月9日(金)午後6時開会
- 場 所:自由民権記念館 アトリウム
- 内 容:主催者・来賓挨拶
劇団若獅子「殺陣田村」紹介
特別展の展示解説 など

〔舞台公演〕

- 劇団若獅子「ヒストリー・of・澤正」
- ・澤田正二郎創案「殺陣田村」
 - ・対談 新國劇の思い出・「殺陣」教室
新國劇の精神を引き継ぐ劇団若獅子による「殺陣(たて)」
実演と新國劇をめぐる対談。さらに「殺陣」教室を行います。
 - 日 時:10月10日(土)午後2時～3時30分
 - 場 所:薫的座(高知市洞ヶ島5-7 薫の神社内)
 - 参加料:500円(当日払い)
 - 主 催:秦史談会/秦地区コミュニティ計画推進市民会議
 - 共 催:自由民権記念館

〔映画上映会〕

- 上映映画 「殺陣師段平(たてしだんべい)」
(1962年公開 1時間26分大映京都)
- 黒澤明脚本の映画化。澤田正二郎が創立した新國劇の原点が描かれた名作で、映画化はこの作品で3度目となる。澤田正二郎を稀代の名優市川雷蔵が演じる。
- 主 演 / 中村鴈治郎 市川雷蔵
監 督 / 瑞穂春海 脚 本 / 黒澤明
- 日 時:10月31日(土)午後2時・6時(2回)
 - 場 所:自由民権記念館 民権ホール
 - 入場料:前売券1000円(当日/1300円)
 - 主 催:四国文映社 / 共 催:自由民権記念館

〔記念講演会〕

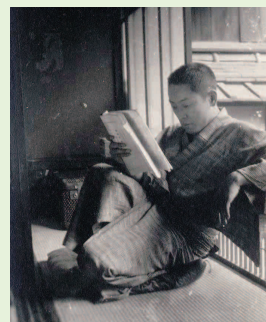
- 演 題:澤田正二郎と新國劇 ― 近代演劇史のなかで ―
講 師:佐藤恵里(高知女子大学文化学部教授)
- 日 時:11月7日(土)午後3時～5時
 - 場 所:自由民権記念館 民権ホール
 - 入場料:無料
 - 主 催:高知近代史研究会 / 自由民権記念館
- ※ 当日、映画の参考上映を行います。
題目「月形半平太」(1925年製作 約10分)
主演 / 澤田正二郎 監督 / 衣笠貞之助 製作 / マキノ省三



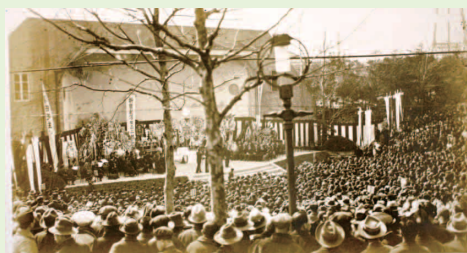
「憲政の神様」尾崎竹雄も澤正ファン



野球チームとの記念写真(中央・「澤正」親子)



台本読みも真剣勝負



日比谷音楽堂での葬儀の様相
葬式では、時の首相田中義一の弔辞を鳩山一郎が代読

昭和4(1929)年3月
死去。(38歳)
日比谷音楽堂で大衆葬を行う

と評した

「興奮の後の疲労を感じてゐた」

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した

と評した



さまざまな思いを胸に
帰りの航路で

朝顔日記・暴風雨のあと」など
公演。6月京都へ、南座「新朝
顔日記・寝台列車・飛行曲」不
入。同年7月、大阪第1回公
演角座、殺陣で好評を博する
大正7(1918)年3月
京都明治座で「春告鳥・月形
半平太・国定忠治」を公演
大正10(1921)年12月
明治座で「大菩薩峠」公演
大正11(1922)年10月
演劇研究所開設
昭和2(1927)年5月
高知への凱旋公演
「土佐人の血をうけた快男児
澤田正二郎」意味深い今度の
興行」と大阪朝日新聞(5月
24日付)は報じた

平成21年度

夏休み子ども歴史教室の報告



7月22日（水）に、毎年恒例の「夏休み子ども歴史教室」を高知市教育研究会社会科部会との共催で開催しました。

自由民権運動の歴史をクイズなどで楽しく学び、郷土の歴史について知識を深めてもらおうと始まったこの行事も、今年で13回目を迎えました。参加者は、高知市内の小学3年生から中学生までの123名（小学生119名、中学生4名）、運営スタッフは、高知市教育研究会社会科部会の先生方11名、「高知県民謡協会」の皆さん5名、劇団「笛の会」の皆さん4名と当館の職員でした。



参加者全員での記念撮影



当日は、朝早くから子どもたちの笑顔と元気な声飛び交い、日ごろは静かな記念館も、この日は活気に溢れていました。

定刻どおりに開会式が始まり、当館制作「自由民権って、何？」のビデオを観た後、先生からの説明もしっかり聴いて、準備は万端、いよいよ10班に分かれてクイズラリーに出発です。クイズラリーは、次の5つのチェックポイントからなり、これらのチェックポイントを通過するとラリーマップに「民権家スタンプ」を押してもらえます。スタンプを5つ集めたらラリー完了です。

【第1チェックポイント】

「高知県民謡協会」のみなさんの太鼓と三味線の伴奏に合わせて、民権歌謡の「民権かぞへ歌」を歌います。

最初は恥ずかしそうにしていた子どもたちもいましたが、民謡協会の方の熱心なご指導のおかげで、元氣よく歌いきました。

【第2チェックポイント】

班対抗で、明治時代に発案された民権すごろくで「上がり」を競いあいます。このすごろく遊びを通して自由民権運動の目的やエピソードを学びました。

【第3、第4チェックポイント】

常設展示室の展示物をヒントにクイズに挑戦します。

班の仲間と協力しながら、たくさんの方の展示資料の中からヒントを探します。参加者の中には、展示物の場所はお手ものといった「リピーター」も現れました。

【第5チェックポイント】

劇団「笛の会」のみなさんによる政談演説会を再現した芝居を観て、クイズに挑戦します。

自由民権を訴える弁士と、演説を妨害する警察官、劇団員の皆さんの迫真の演技に加え、子どもたちも聴衆役となって、客席から拍手を送ったり、「そうだ！そうだ！」と掛け声をかけたりして、大変盛り上がりしました。

参加者全員がすべてのチェックポイントを通過した後、閉会式、記念撮影と進み、今年の歴史教室も無事お開きとなりました。



皆既日食を見上げる子どもたち

この日は、国内では46年ぶりに皆既日食が観測できる日と重なり、クイズラリーの合間に、当館のガラス張りの屋根をみんので見上げて、雲の切れ間から三日月形の太陽を観察することもできました。参加者のみなさんにとって夏休みの楽しい思い出になりましたでしょうか。来年も新たな趣向でみなさんの参加をお待ちしています。

出題されたクイズの一例

■問1

自由民権運動の時代に、本当にあった信じられない葬式とは？

- ① 新聞の葬式
- ② ちょんまげの葬式
- ③ 教科書の葬式

■問2

女性の選挙権を日本で初めて要求した高知市出身の楠瀬喜多は、何と呼ばれていたでしょうか？

- ① 自由ばあさん
- ② 選挙ばあさん
- ③ 民権ばあさん

— 高知市立自由民権記念館 学校教育連携事業 —
第10回社会科自由研究作品展募集

今年も社会科自由研究作品展を行います。この作品展は、子どもたちが身近な郷土の歴史や様々な事柄について関心を持って学び、その成果を発表する目的で開催するものです。

皆さんのご出品をお待ちしています。

- 主 催:高知市立自由民権記念館
- 共 催:高知市教育研究会社会科部会
- 応募要領
 - 募集期間 **平成21年11月1日(日)～11月29日(日)午後5時(必着)**
 - 応募作品及び規格
 - (1) 高知市内の小・中学生の社会科に関する研究作品
 - (2) 規格については、特に制限はありません。
 (ただし、展示面積は1作品につき模造紙全紙の1枚程度までとします。)
 - (3) グループでの制作作品も可とします。
 - 募集点数 **1校20点以内、1人(1グループ)につき1点とします。**
 - 応募方法及び応募先
 各学校に配布の応募用紙及び出品票に必要事項を記入し、
 (出品票は作品に貼付) **学校を通して高知市立自由民権記念館に提出してください。**
- 作品展の日程 平成22年1月下旬～2月下旬(予定)
 ※原則、全応募作品を展示します。また、特別賞表彰を行います。
- その他
 応募作品は、作品展終了後に各学校を通して返却いたします。

〔お問い合わせ先〕高知市立自由民権記念館 学芸係
 TEL 088-831-3336



チェックポイント①



チェックポイント②



チェックポイント③



チェックポイント④



チェックポイント⑤

— 第15回 —
全国部落史研究大会
開かれる

8月1日(土) 2日(日)の2日間、自由民権記念館で、第15回全国部落史研究大会(全国部落史研究会と共催)が102名の参加で開催されました。1日目は、前近代と近現代の分科会でそれぞれ研究報告・討論が行われました。前近代は藤井寿一氏「紀州藩非人身分の諸相」、小野田一幸氏「近世大坂市中における垣外番について」、高久智広氏「長吏の組織の探索活動」の報告。そして近現代は吉田文茂氏「戦後初期高知県の部落解放運動」、割石忠典氏「戦後広島県の部落解放運動—1945年から1960



年」が報告され、前近代における非人身分等の諸相や戦後の部落解放運動や部落問題のあり方について論議が深められました。2日目は、全体会で当館事務局長筒井秀一が「土佐の自由民権と部落問題」と題して講演、また自由民権記念館の常設展示等の見学やフィールドワークも行われました。大会を通じて、部落問題や被差別身分にかかわる新しい知見も出され、実り多い研究大会となりました。



板垣伝刊行にあたって

公文 豪



井口山に眠る宇田友猪（朋猪）の墓石には、詩友横山又吉撰の墓碑銘が刻まれ、その業績として板垣退助伝、自由党史が銘記されている。

昭和五年十一月、宇田は資料収集のため高知へ向かう船中で脳溢血のため倒れ死去した。急を聞き、駆けつけた横山が見たのは、口啞（こうお）して一言も発することのできない寝たきりの宇田の姿だった。

宇田は、大正十三年から晩年の七年間を、師父と仰ぐ板垣退助の伝記執筆

に心血を注いだ。直接のスポンサーは今幡西衛と坂本志魯雄だったが、その周辺には中野寅次郎、横山又吉、西内正基などかつての民権家があり、若き日の中島及、平尾道雄もこの伝記執筆にかかわった。それゆえ、宇田没後、これらの人々は板垣伝刊行を切望した。これらを見ず、原稿の存在を知る人々もまれな状態で今日まで八十年近くが経過した。残された五千枚を超える毛筆書きの原稿は、ながく出資者の今幡、坂本両家に私蔵され、平成に入って東京都渋谷区教育委員会、高知県立歴史民俗資料館にそれぞれ寄贈された。これらの事情で、宇田畢生の大作は、文字どおり「まぼろしの板垣伝」といっても過言ではなかった。

私は、もしも本書が戦前に出版されていたら、明治政治史の古典として高い評価を得ていたと思う。この不幸な運命をたどった板垣伝を、必ず世に出

したいという一念が芽生えたのは、平成十五年の夏頃だった。その頃、私は板垣研究を志してかなりの資料を蓄積していたが、未完とはいえ、この浩瀚な板垣伝を稿本のまま眠らせて、独断的に「つまみ食い」して板垣を論ずるなどということは研究者としてフェアなことではないと思った。それが、ともかくいつでも出版できるようにパソコンへこつこつと入力する作業に着手する動機となった。

思うに、宇田友猪は明治の土佐が生んだ天才の一人である。現在の日本人にはもはや縁遠くなった漢学の豊かな素養を駆使して、ダイナミックに、叙事詩的に歴史を描く手法は、今日の歴史学の手法とはかなり異なるが、編集作業を通じて、歴史の面白さを堪能させてもらったのは得難い体験だった。

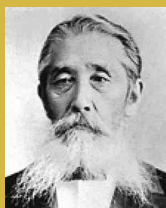
生前の宇田は、中島及宛て書簡の中で、本書を大手出版社から出すことを

希望していた。私は出版のあてもなく仕事を始めたが、平成十六年、思い切つて原書房へメールで出版を打診したところ、即座に社長の成瀬雅人氏から快諾のメールが届いたのは驚嘆した。

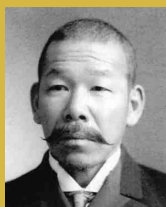
同社は、「明治百年史叢書」というすぐれた史書を刊行し続けている出版社である。その慧眼、見識の高さには、ただただ感服のほかなかった。本書が原書房の「明治百年史叢書」第四五九巻（四六二巻として刊行されることは、宇田生前の希望に叶い、編者としてもこの上ない喜びである。

板垣退助は、幕末維新から自由民権運動、憲法発布、日清戦争をはさむ初期議会の攻防という激動の時代を、立憲政治確立の理想に生きた政治家である。没後一〇〇年。本書を手取る人々が、その思想、精神をくみ取り、新たに板垣再評価の気運を作り出してくださることを念願してやまない。

板垣退助君伝記 (全四巻)



板垣 退助



宇田 友猪

宇田友猪〔著〕
公文 豪〔校訂〕
安在邦夫〔解説〕

八十年近く埋もれた幻の伝記公刊！
板垣退助の生涯と思想の究明に必読の詳細な史料

図書の紹介

宇田友猪著
『板垣退助君伝記』

第1巻～4巻

A5判・上製・函入・528頁

定価 各 9,975円(税込)

発売予定:

平成21年8月下旬(第1巻)～毎月発行

出版社: 原書房(東京都新宿)



推薦の言葉
板垣研究が飛躍的に進むことを期待

高知市立自由民権記念館館長 松岡 僖一

板垣退助は、近代日本史上特筆大書されるべき人物の一人であるにもかかわらず、かれの研究は進んでいるとは言いがたい。それは、種々の事件・運動に対する板垣の姿勢に「嫌疑縷々(るる) 到り奇禍(きか) 身に及ばんとする際」(栗原亮一)に関係資料が焼棄された結果である。このたび出版される宇田友猪(滄溟)の『板垣退助君伝記』は、板垣を終生師と仰いだ宇田が「板伯に酬ゆる最後の事業」として執筆したものである。そのことだけでも既成の板垣像は変更を迫られそうであるが、この出版によって資料の欠落を補い、板垣研究・近代史研究が飛躍的に進むことが期待される。

画集『新水也空』

(政治家の部・俳優の部)

「芸術は爆発だ」

という文句にピンとくるのは、40代半ばより上になるだろうか。

知っているひとは説明不要だが、1970年代以降、テレビのバラエティ番組やコマーシャルに出演して、一種の奇人としてお茶の間に名をはせた岡本太郎氏の名文句のひとつだ。もしかすると説明が必要なのはこちらの側面かもしれないが、もちろん岡本太郎は世界的な現代美術家であり卓抜な評論家である。

この太郎の父親一平は、大正から昭和戦前にかけて活躍した漫画家であった。一時は、「宰相の名は知らぬが、岡本一平なら知っている」と言われるほどの人気だった。

著作も多く出版された昭和初期は、漫画家一平の円熟期だと言つてよいと思うが、昭和4(1929)年に限定出版された画集が本品である。それぞれ60枚、和紙に描かれた当時の政治家、俳優の似顔絵が布製の帙(ちつ)に収められるという荘重なつくりだ。

この2冊を当館が所蔵している理由は、まずは政治家の部に「板垣退助」が取り上げられているからだ。が、「俳優の部」にも高知ゆかりの俳優、澤田正二郎が登場する。

澤田正二郎は、新國劇の創始者で、澤正の愛称で親しまれた日本の大衆演劇界最初の大スターであった。昭和4

(1929)年、38歳という若さで人気絶頂の時に亡くなり、10万人が葬儀に参列、首相田中義一は弔辞を寄せた。

一平が題材に選んだ澤正は、新國劇の代表作、「存じ国定忠治の一場面である(写真)。「赤城の山も今宵限り」の名台詞は、刀をかざしたポーズが有名だが、これはそれに続くシーン。

人気漫画家として、誰が見ても国定忠治とわかるポーズでは描きたくなかったのかもしれない。しかし当時のひとはたとえ詞書がなくてもこれが澤正だとわかったはずだ。一平がしっかりと捉えて表現しているこの上目づかい、まぎれもなく澤正のものだ。

澤田正二郎は多才なひとで、旅先から子供に宛ててために書かれたハガキは、1枚1枚が、活劇風の続きものの漫画の1コマになっている。それが『パチパチ小僧』というタイトルで単行本として出版されている。序文を岡本一平が寄せている。中に、澤正の漫画に対する評価を尋ねられたら、「彼はなかなかやるよ」と答えを用意している」と記している。

自由民権記念館秋の特別展は、没後80年にあたる澤正を取り上げ顕彰する『新水也空』と『パチパチ小僧』、ともに出版予定である。

上目づかいの澤正は、当館学芸係にも今やすっかりお馴染みである。



民権家入物録



やまだ へいご えもん
山田平左衛門
(1845~1906)

弘化2年5月18日、高知城下帯屋町に八蔵清肅の長男として誕生。知行五百八十石の御馬廻であった。

幕末には、板垣退助の迅衝隊に参加、小隊司令として伏見の役に戦い、のち会津戦争に従軍してしばしば武勲を立てた。凱旋後、慶應4年6月23日慶應義塾に入社。維新後教導団に入ったが、1873(明治6)年征韓論で下野して高知に帰り、立志社に参加した。

その後、立志学舎の学校係を務め、1875(明治8)年には英学教師雇い入れのため上京、慶應義塾卒業生の江口高邦や深間内基らを教師に招請した。同年10月27日の佐々木高行の日記には、「津田且相来り言フ、此度立志社連ノ中、山田喜久馬(平左衛門)池田応(応助)兩人出京セリ。是ハ英学ノ教師雇人ノ為ナリ。兩人等ノ論ヲ聞クニ兎角立志社モ実行不学、何分学問乏敷テハ万事不都合ニ付、屹度学問致候ト決定イタシ教師ヲ雇フ所ナリトテ、征韓論モ主張セズ、居合ノ光景ナリ。」と記されている。

1887(明治10)年、林有造ら県外居住の立志社員が拳兵を陰謀した罪の側杖で禁獄1年の刑を受けた。罪に問われたのは、日向の賊地視察から帰ってきた藤好静・村松政克と開成館で密会し、兩人が桐野利秋と面会して暴挙の事を申し合わせたことを知りながら隠蔽したことであった。

1890(明治13)年3月には立志社の決定に基づき、森脇直樹とともに九州に派遣され、国会開設の願望について演説し、署名調印を集めた。翌年2月片岡健吉に代わって立志社長に推挙され、各民権結社代表者10名からなる立志社憲法草稿審査委員を務めるなど民権運動を指導した。また、立志学舎が運営資金の不足等の事情から次第に衰微し、遂に閉校の止むなきに至り、立志社副社長、島地正存らと、この学舎再建のため、設立の準備を進め、1881(明治14)年に高知共立学校を設立する。

1882(明治15)年、立志社は海南自由党がその任務を肩代わりし、集會条例改正追加により、取締りが強化されたため、「立志社掟」を制定し、肝煎山田平左衛門がこれを高知署に提出して集會条例が適用されない親睦団体に変身した。1898(明治31)年、第5回総選挙に立候補して代議士に当選。次いで土陽新聞社長をつとめた。1906(明治39)年1月6日病没。62歳。『銀行簿記法』や『明治建白沿革史』などを著した、山田十畝は弟。

常設展示 Q&A

- 8 -



Q 立志社が明治7年に設立し関西の慶応とも称されたという立志学舎は、何歳から入れたのでしょうか。また、女性の入学は許されていたのでしょうか?教えてください。

A 明治5年に学制が発布され、初等教育を行う機関は、高知県でも徐々に増えつつあったが(明治8年就学率:22%)、中等教育を行う機関はほぼ皆無だったので、立志学舎は、それに相当する一般教育を政治的な教育とあわせて行っていたようです。

ご質問の年齢ですが、資料が残っていないため、はっきりしたことは分かりません。

ただ、現在の小学生から大学院生ぐらいの幅広い年齢層が学んでいました。[参考年齢(入学時):宮地茂春9歳・島崎猪十馬10歳・西原清東15歳・大石正巳19歳・坂本南海男24歳ほか]

また、立志学舎に女性が在籍した形跡はありません。これは、入学を希望する女子がいなかったためではなく、立志学舎が女子の入学を許さなかったためでしょう。

憲法映画

―自由民権館で撮影ロケ―

「太陽と月」完成上映会!

昨年、当館でもロケをおこなった映画「太陽と月」の完成披露上映会を行います。

これは自由民権運動の中で生まれた土佐をはじめとする憲法草案と、現在の日本国憲法の関係をテーマにした映画です。落語家の立川志らくさんが、落語で分かりやすく案内してくれます。

是非ご来場ください。



立川志らく師匠が落語で案内します

映画「太陽と月」について
映画監督 福原 進

(監督あいさつ)

日本国憲法の映画と聞いただけで、みなさんは「難しい法律の映画」を想像されるかもしれませんが、この映画は、どんな人々がどんな考えを持ってかわかり、憲法を作り上げていったかを描いています。憲法の基本は、私たち国民の一人ひとりが平等に権利を持ち、その権利を行使することにあります。それを基本的人権といいますが、今の憲法ができるまでその権利は保障されていませんでした。選挙権という権利を行使して、新しい政権が誕生したのも、私たちがその権利を持っているからです。それは私たち国民が生きている上で、とても重要なことです。

わが国では、明治時代に高知の植木枝盛が中心になって憲法の基になる草案をつくりましたが、時の政府に受け入れられませんでした。第二次世界大戦で日本が敗れ、新しい憲法をつくる時、この草案が大変重要な役割をはたします。日本国憲法を生み出した人たちの知恵や情熱を感じ取っていただければ嬉しいのです。

出前授業・講座で土佐の自由民権運動を身近に!

当館では、「あなたの学校・公民館などに出かけます」と銘打ち、出前授業・講座を行っています。

9月末までに、土佐中学校や高知大学、横浜公民館、東部健康福祉センターなどで開講しました。今後は、昭和小学校、かるぼーと高齢者教室、高坂学園、安田町などを予定しています。

その他、土佐観光ガイドボランティア養成講座、ミュージアムネットワーク「幕末ゆめ道場巡回講座」でも講演します。

初めての試みに松岡館長は「出前授業をやってみて驚くのは、立派なひげを生やした板垣退助の顔や立憲社跡の碑については多くの人が知っているのに、土佐の自由民権運動がどんな風になされたのかについてほとんどの人が知らないということでした。その理由の一つに、市民に自由民権運動のことを知ってもらおう我々

の努力が足りなかったことがあげられます。それで今年度は、出前授業・出前講義に積極的に取り組んでいます。ただ、せっかく声をかけていただいてもこちらの都合がつかず、お断りすることがあり申し訳なく思っています」と話していました。

土佐の自由民権運動を身近に理解していただくため、今後とも日程調整がつかない限り学校や地域に出向いていきたいと考えています。お気軽にお声をかけてください。

【お問い合わせ先】

高知市立自由民権記念館 学芸係

TEL 088-831-3336



土佐中学校での授業風景

自由帳から

館内備付け「自由帳」にご記入ください。さまざまな皆様の声をお届けします。

多くの土佐の先人たちの自由民権運動により大きく国を動かしたことに感動した。高知が自由民権のメッカというに相応しいと感じた。(徳島)

高知の自由民権運動について分かりやすく展示されており、大変興味がいきました。今の世の中に、必要な思想が(ヒントが)多くあると感じました。(東京)

枝盛さんがとつてもかっこいいと思いました。民権音頭とか考

えてしまう枝盛さんはとてもお茶目な方なのではないでしょうか。早く死んでしまったようで残念ですが、思想は後に残ったので良かったです。(匿名)

「自由」という権利は過去の人々が、活動して少しずつ勝ち取っていったものだったと、ここにきて改めて思いました。(東京)
今は県外にいますが、高知の良さを再発見できました。自分の県、そして自分の国についてもっと勉強したなと思います。充実した展示ありがとうございました。(匿名)

と き さと
時代の郷



自由民権記念館

自由のともしび

JIYU NO TOMOSHIBI

自由民権記念館だより vol.67

発行 2009(平成21)年10月1日 発行人 松岡 儋一

発行所 〒780-8010 高知市棧橋通4丁目14-3 TEL.088-831-3336 FAX.088-831-3306